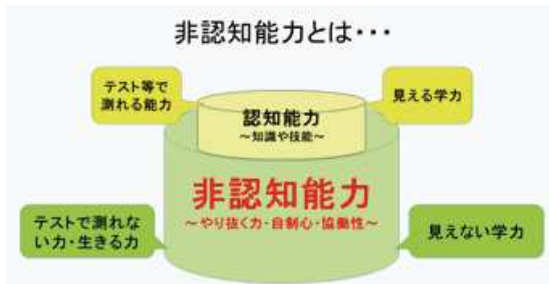


## ～豊岡市教育フォーラムより～「非認知能力の向上と豊岡市の取組」

今年のテーマは「非認知能力の向上と豊岡市の取組」です。非認知能力は、数値で測れる学力を下支えるものであり、教育によって向上させることができるものと捉えています。

豊岡市では非認知能力のうち「やり抜く力」「自制心」「協働性」の3つを重点的に向上させていきます。



▲「自分たちで話し合って表現したよ」

非認知能力を高めるには、演劇やダンスなどアウトプット型の学習（他者を意識した表現）が有効であるとされています。小学校低学年の演劇ワークショップの授業では、子どもたちがやりたいものになり切って演じたり、お題について話し合い、グループで表現したりします。

発表に向けた「自分の考えを伝える」「仲間の意見を受け入れる」「納得して合意形成する」過程がとても大事です。発表に向かうこの過程で、非認知能力が発揮され、その力が高まっていきます。

フォーラムでは、参加者から様々な声が聞かれました。

### 授業参観した担任、校長の声

上野 真穂 教諭（資母小学校）

○ファシリテーターにどんどんほめてもらい、自信がついたようです。見られる感覚が心地よさそうでした。

西垣 秀樹 校長（三江小学校）

○自分で考える、表現することを楽しんでいるなど、アウトプットすることが低学年では必要だと感じました。

### 指導したプロのファシリテーターの声

わたなべ なおこ 氏（演出家）

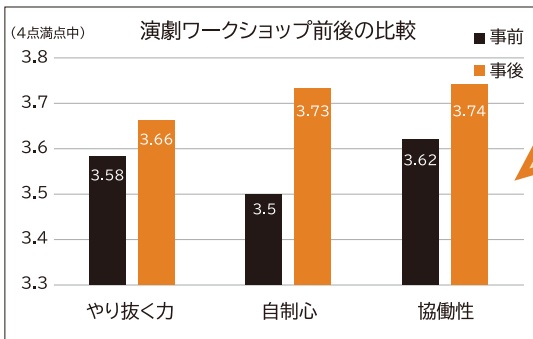
○アウトプットするには、一人一人「考える」ことが欠かせません。考える力が発揮しやすいのが演劇ワークショップです。

○幼い時の演劇ワークショップはとてもよく覚えています。いろいろな感情の揺れ動きや発見があり、幼少期だから記憶されやすく定着しやすいのです。

### ～2020年度検証会議から～

『演劇ワークショップの後、協働性、自制心はプラスの変化が確実に起こったことが検証された』

（青山学院大学 荻宿研究室）



### 非認知能力を評価・検証した研究者の声

荻宿 俊文 教授（青山学院大学）

○非認知能力を育てるには、乳幼児期の遊びが大きく関わっています。

乳幼児期の子どもは遊びがほとんどです。遊びには「やりたいことをやる」「友達と折り合いをつける」など、子どもが育つ要素がとてたくさん含まれています。

○異年齢での遊びが子どもの非認知能力を飛躍的に伸ばすことも知られています。

○何かを創る活動など、大人が介入しないことがポイントです。

「子どもに任せて一人前に扱う」「失敗しても子どもの責任で最後までやり切らせる」これがやりぬく力の向上につながります。

○非認知能力はスキルであり、教育で向上させる可能性があり、子どもの学力向上につながるという意味で、とても大切だと思いました。

授業の中で「学び合い」を意識し、非認知能力の視点を授業に取り入れていきたいと思えます。

○教師の言葉の一つ一つが、子どもたちの非認知能力向上に影響を及ぼすことに、授業づくり、学級づくりの手掛かりがあると感じました。子どもたちを観る視点の真ん中に、非認知能力を据えて実践していきます。

### フォーラムに参加した教師の声



▲「みんなにうまく伝わったかな？」

### 家庭でどうすればいいの？（とよおか はばたきメッセージから）

●子どもが何にでも挑戦し、何度でもやり直せる環境をつくりましょう。自信や勇気を育み、やり抜く力になります。

●子どものありのままの姿を受け入れて認めましょう。子どもを褒めるときは、能力よりも努力する過程を褒めると自己肯定感が高まります。

●子どもと話し合っ、家庭のルールを決めましょう。そして、ルールを守らせましょう。自制心や自立心が育ちます。

●家庭の対話を大切にしましょう。豊かな対話がコミュニケーション能力や表現力、自信を養います。

●友だちと遊ぶ経験をさせましょう。思う存分遊ぶことで、問題を解決する力や友だちとかかわる力、共感する力や自分の感情をコントロールする力などが身につきます。

家庭でできることは、たくさんあるんじゃないかな。



ほめてもらおうと、うれしくて、やる気が出るよ。

家族といっばいお話がしたいなあ。



学校、家庭、地域みんなで、子どもの非認知能力（やり抜く力・自制心・協働性）を育てることを意識して、子どもに関わっていきましょう。

【問合せ 子ども教育課 Tel.22-1880】